

このたびの総選挙に対する私たちの見解

このたびの総選挙について、それが私たちの多大な税金を費やして、今行う意義がいったいどこにあるのか、当初より私たちには大きな疑問がありました。またその後、民進党執行部が突如「希望の党」への合流を決め、自ら解党を選択しましたが、その経緯や趣旨について納得できる説明もなく、また情報も錯そうし、地方に生きる私たちは戸惑うばかりでした。少なくともこの一連の事態によって、これまで私たちがここ新潟で作りあげてきた市民と立憲野党との協力関係が大きな危機に見舞われたことは否めません。

しかし私たちは、戦争への道をひらく安保法制の廃止、権力者が政治を私物化しないための立憲主義の遵守、個人の尊厳を回復する政治の実現を求める市民として、変わることなくこれらの原則をもとに行動しようと思います。

具体的には、党首をはじめ、これらの原則と反する言動をくりかえす「希望の党」とは行動を共にすることはありません。また、これらの原則を踏みにじってきた安倍政権を倒す現実的手段としても、「希望の党」に協力することは妥当であると思いません。

今問われているのは、将来を見据えて、私たちが考える真に民主主義的な原則にもとづく確かな立憲政治を実現できるかどうかにはほかなりません。そのために、このたびの総選挙でも、これに賛同する野党や議員、候補者のみなさんと連携し、共に新しい政治の可能性を力強く探求したいと思っています。

2017年10月4日

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める新潟市民連合(市民連合@新潟)